

氏名(本籍)	野村佐和子(石川県)
学位の種類	博士(教育学)
学位記番号	博甲第1,175号
学位授与年月日	平成6年3月25日
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当
審査研究科	教育学研究科
学位論文題目	市町村における生涯学習援助システムの研究 —構造と行動の関係解明—
主査	筑波大学教授 教育学博士 山本恒夫
副査	筑波大学助教授 手打明敏
副査	筑波大学教授 教育学博士 津曲裕次
副査	筑波大学教授 体育学博士 飯田稔

論文の要旨

1. 本論文の目的

本論文は、我が国の生涯学習推進上の大きな課題となっている市町村における生涯学習援助システムの構造と行動の関係解明を目的としたものである。

このような研究を行うことの意義は、まず第一に、市町村にどのような生涯学習援助システムを構築したらよいかを明らかにすることができることにあり、第二に、生涯学習援助システム研究の新たな方法を提出することになるという点にある。

2. 研究の方法

本論文では、生涯学習援助システムをサイバネティクスの観点から捉え、生涯学習援助システムの論理システムの側面を取り出している。これは、生涯学習援助システムの構造と行動の関係を一定の条件と法則(ないしは仮説)によって説明しようとしたためである。また、生涯学習援助システムの構造と行動の関係解明を行うにあたっては、ファジィシステムアプローチを用いている。

なお、本論文では上記の目的を達成するために163市町村の資料分析を行い、茨城県総和町、長野県茅野市、岩手県金ヶ崎町についての事例研究を行っている。事例研究では、5調査を実施した。

3. 本論文の構造

序章	16
第1章 市町村における生涯学習援助システムの必要性	36
第2章 生涯学習援助システムの把握	39
第3章 我が国の生涯学習援助システム	80

第4章 生涯学習援助システムの構造と行動の関係—理論的検討—	73
第5章 生涯学習援助システムの構造と行動の関係—事例による実証的検討—	81
結 章	8

合計 333頁

(400字詰め原稿用紙換算, 999枚)

資料 (別冊)	141頁
---------	------

4. 本論文の概要

我が国の市町村における生涯学習援助システムは、単純な制御システム、適応制御システム、学習制御システムの3タイプが存在する。これら3システムの行動の評価について言えば、一般には単純な制御システムよりも適応制御システムの方がよく、適応制御システムよりも学習制御システムがよくなるとされている ((1)式)。

$$\forall x \forall y \forall z ((Cx, Ay, Lz) \supset (Cx < Ay < Lz)) \quad \dots \quad (1)$$

(注) C : 単純な制御システム A : 適応制御システム

 L : 学習制御システム \supset : ならば (を表す記号論理学の記号)

\forall : 全称記号 (記号論理学の記号)

 (C, A, L) : システムの構造がC, A, Lであることを表す

$C < A$: システムの行動の評価がCよりAの方がよいことを表す

本論文では、この命題が生涯学習援助システムの場合にも成り立つかどうかを理論的、実証的に検討することによって、生涯学習援助システムの構造 (命題の前件) と行動 (命題の後件) の関係を解明している。

まず、(1)式を理論的なシミュレーションによって検討すると、伝達行動に関してはほぼ成り立つことが明らかになったが、出力行動に関しては、(1)が成り立つのは、入力が変わるく、出力関数がよいときのみで、その以外の入力や出力関数の場合には成り立たないことが明らかとなった。

次に、実証的な検討に関しては、(1)式は普遍的条件的形式の命題であり、その検証は反証テストによって行わなければならないから、ここでは茨城県総和町 (単純な制御システム)、長野県茅野市 (適応制御システム)、岩手県金ヶ崎町 (学習制御システム) を事例として取り上げ、出力行動に関して(1)式の検討を行った。その結果、実際のシステムでもその出力行動は理論的検討の場合とほぼ同様の傾向を示すことが明らかとなった。

先に示した(1)式は、理論的なシミュレーションによっても、また実証的な事例研究によっても反証されたため、本論文では研究成果を手がかりに(1)式を以下のように分解した命題群 ((2)~(5)式) へ置き換え、生涯学習援助システムの場合の構造と行動の関係はこのような命題になることをもって結論とした。

I. 伝達行動に関して、

$$\forall x \forall y \forall z ((Cx, Ay, Lz) \supset (Cx < Ay < Lz)) \quad \dots \quad (2)$$

(ただし、システムの状態が変わる場合のみ、後件の Ay と Lz が逆になる。)

II. 出力行動に関して,

①入力が変わる、状態がよい場合,

$$\forall x \forall y \forall z ((Cx, Ay, Lz) \supset (Cx < Ay < Lz)) \dots\dots\dots (3)$$

②入力、状態が同じ場合 (共によいかふつう、あるいははわるい場合)

$$\forall x \forall y \forall z ((Cx, Ay, Lz) \supset (Cx \doteq Ay \doteq Lz)) \dots\dots\dots (4)$$

③入力がよく、状態がわるい場合

$$\forall x \forall y \forall z ((Cx, Ay, Lz) \supset (Cx > Ay > Lz)) \dots\dots\dots (5)$$

これにより、市町村レベルの生涯学習援助システムの場合には、(5)式のように(1)式とは全く逆になることもあるなど、必ずしも適応制御システムや学習制御システムにする必要はなく、単純な制御システムでも十分によい結果の得られる可能性のあることが判明した。

審 査 の 要 旨

本論文は、これまで未開拓の研究分野であった生涯学習援助システムの構造と行動の関係を初めて解明したものであり、その成果は教育学におけるシステム研究の水準を飛躍的に高めたといえる。具体的な研究成果としては、本論文ではファジィシステムアプローチを導入することにより生涯学習援助システムのような社会システムをトータルに捉える方法を開発しており、それをを用いて研究を行った結果、システムの構造と行動に関する従来の理論は、生涯学習援助システムのような社会システムの場合には部分的にしか当てはまらないことを初めて明らかにした。この点は本論文のオリジナルなところであり、高く評価される。

また、生涯学習援助システムにあっても、従来は適応制御システムや学習制御システムがよいとされがちであったが、条件によっては単純な制御システムの方がよい結果が得られる可能性があることを明らかにした点は、市町村における生涯学習援助システムの構築に対して大きな貢献をするものといえる。

なお、本論文では従来的一般命題を反証して新たな命題を提出しているが、今後はさらに事例研究を拡大するなどして、理論を深めることが望まれる。

よって、著者は博士(教育学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。